

「令和5年度森林・林業白書」に基づく、我が国における木材産業の動向に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

1. 近年、大規模製材工場が減少し、小規模製材工場が各産地に新たに建設される傾向があり、令和4（2022）年末現在の製材工場数は3804工場で、前年よりも144工場増加した。
2. 令和4（2022）年の集成材の生産量は、新設住宅着工戸数の増加等を受けて前年から大幅に増加して830万 m^3 となり、その大部分を造作用が占めている。
3. 令和4（2022）年の普通合板の生産量は、欧州への輸出が好調のため前年から大幅に増加して1530万 m^3 となり、このうち構造用の広葉樹合板が95.4%を占め、1460万 m^3 となっている。
4. 令和4（2022）年の木造軸組工法におけるプレカット加工率は、90%を超えている。
5. 我が国のパーティクルボードは、多くが輸入で賄われており、令和4（2022）年には、国内生産量は輸入量の $\frac{1}{3}$ 程度の9.8万 m^3 にとどまっている。

正答 4

トランシット測量において生じる水平角観測の誤差に関する次の記述 a～d のうちには、望遠鏡の正位・反位の観測値の平均をとることによって消去することができるものが二つある。それらを選んでいるのはどれか。

- a. 視準軸が水平軸に直交していないことによって生じる誤差
- b. 平盤気泡管が鉛直軸に直交していないことによって生じる誤差
- c. 目盛盤の刻み間隔が均等でないことによって生じる誤差
- d. 水平軸が鉛直軸に直交していないことによって生じる誤差

- 1. a, b
- 2. a, c
- 3. a, d
- 4. b, c
- 5. c, d

正答 3